

資料 3 – 1

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法					
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解放	分析法	測定法の総合評価	備考
テトラブチルスズ	1461-25-2	0.2mg/m ³ (スズとして)	-	雌雄Wistarラット12匹にテトラブチルスズ(TTBT)を0,100,300,2000mg/kg(雄0,6-7,17-19,109-130mg TTBT/kg bw/日、雌0,5-8,16-24,100-118mg TTBT/kg bw/日)を33日間混餌投与した試験の結果、300mg/kg以上投与群の雌雄で胸腺重量低下及び胸腺リバ球の減少、雄ラットで胸腺重量の低下がみられた1)。以上の動物試験の結果よりNOAELを100mg/kg(雄6.5mg TTBT/kg bw/日)と判断し、吸入への変換および不確実係数を考慮した濃度基準値0.2mg Sn/m ³ (8時間濃度基準値)を提案する。	短時間ばく露の評価に資する情報に乏しいことから、短時間濃度基準値は設定しない。 なお、近年生殖毒性・発生毒性の知見があることから、今後早期に確認・検討が必要である。 有機スズ化合物の哺乳類に対する有害性はアルキル基の種類及びその数により毒性が異なる(Snoeij NJ, Penninks AH, Seinen W. Biological activity of organotin compounds-an overview. Environ Res. 1987 Dec;44(2):335-53.)との知見から、令和5年度対象物質についてモノブチル-,ジブチル-,トリブチル-,トリフェニル-,テトラブチル-として評価した。	免疫毒性	ラット	01	Waalkens-Berndsen, D.H. 2004. Tetrabutyltinane (CAS # 1461-25-2): Combined oral repeated dose toxicity study with the reproduction/developmental toxicity screening test in rats. TNO Report V4904. 29 January 2004. cited in SIDS Initial Assessment Report For SIAM 24. Paris, France, 17-20 April 2007.		(ろ過+固体) 捕集 – 高速液体クロマトグラフ分析方法及び黒鉛炉原子吸光分光分析方法	グラスファイバーフィルター+XAD-2捕集管(80 mg/40 mg) 1~1.5 L/min 33.3~500 min	脱着溶媒: アセトニトリル(内標準物質; 酢酸)	高速液体クロマトグラフ/黒鉛炉原子吸光度計(HPLC/GFAAS)	○	・本法の回収率は濃度基準値(参考)の1/10~2倍の濃度範囲であるが、評価は精度、偏り、正確さで示されている。
									Snoeij NJ, Penninks AH, Seinen W. Biological activity of organotin compounds-an overview. Environ Res. 1987 Dec;44(2):335-53.							
ヘキサクロロエタン	67-72-1	1ppm	-	雌雄Fischer344ラット各群10匹に0, 1, 15, 62 mg/kg bw/日の用量で16週間混餌投与試験を行ったところ、15 mg/kg bw/日以上の投与群で用量依存的に腎臓尿細管傷害と肝細胞傷害が認められ、NOELは1 mg/kg bw/日であった1)。 ヒトの発がん性の報告はなかったが、雌雄のB6C3F1マウス各50匹に590, 1179mg/kg bw/日の用量を5日/週、78週間強制経口投与した試験では肝細胞癌、また雌雄のF344ラット各群50匹に2用量(雄:10, 20mg/kg bw/日、雌:80, 160mg/kg bw/日)を5日/週、2年間強制経口投与した実験では、雄ラットに腎臓腺腫・癌を含む腫瘍の発生増加が確認された2) 3)。 雄ウサギの経皮ばく露LD ₅₀ 値(<32,000 mg/kgで、経口推定致死量>1,000 mg/kgより高い値であったが、致死性があるので皮膚に関する表記がなされている4) 5)。 以上より、1)の動物実験の結果から腎臓尿細管障害および肝細胞障害が見られ、かつ对照群との差が明確な中容量15 mg/kg bw/日をLOAELとし、不確実係数等を考慮した1ppmを八時間濃度基準値として提案する。		腎障害、肝障害	ラット	01	Gorzinski SJ, Nolan RJ, McCollister SB, Kociba RJ, Mattsson JL. Subchronic oral toxicity, tissue distribution and clearance of hexachloroethane in the rat. Drug Chem Toxicol. 1985;8(3):155-69.		固体捕集 – ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管(100 mg/50 mg) : 0.01-0.2 μL/min	二硫化炭素、1 μL/min;	ガスクロマトグラフ/FID分析方法	○	
								02	National Toxicology Program (NTP). Bioassay of hexachloroethane for possible carcinogenicity. Washington, DC, U.S.: 1978 0163 - 7185 Contract No.: NCI-CG-TR-68.							
								03	National Toxicology Program (NTP). Technical Report on the Toxicological and Carcinogenesis Studies of Hexachloroethane in F344/N Rats (Gavage Studies). Research Triangle Park, NC, U.S.: U.S. Department of Health and Human Services, 1989.							
								04	Weeks MH, Angerer RA, Bishop R, Thomasino J, Pope CR. The toxicity of hexachloroethane in laboratory animals. Am Ind Hyg Assoc J. 1979 Mar;40(3):187-99.							
								05	Weeks MH, Thomasino JA. Assessment of Acute Toxicity of Hexachloroethane in Laboratory Animals. Study No. 51-0075-78. Aberdeen Proving Ground, MD, U.S.: U.S. Army Environmental Hygiene Agency, 1976;							
メチルアミン	74-89-5	4ppm	-	雌雄各群50匹のB6D2F1/Crlマウスにメチルアミンの蒸気を0, 5, 15および45 ppmの濃度で104週間(6時間/日、5日/週)全身ばく露した結果、全てのばく露濃度でがん原性は認められなかった。一方、45 ppmばく露群において、雄では鼻腔の移行上皮領域の炎症と上皮過形成、雌では鼻腔の移行上皮領域の炎症、上皮過形成、移行上皮の扁平上皮化生、喫上皮のFオジン好性変化が認められた。15 ppmばく露において、雌で移行上皮領域の炎症と上皮過形成が認められた1)。 以上により、動物実験の結果からNOAELを5 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した4 ppmを八時間濃度基準値として提案する。 なお、短時間濃度基準値については、文献が不十分であることから設定しないことを提案する。		鼻腔上皮炎症・過形成	マウス	01	日本バイオアッセイ研究センター. メチルアミンのマウスを用いた吸入によるがん原性試験報告書. 神奈川県秦野市: 中央労働災害防止協会; 2012		固体(反応) 捕集 – 高速液体クロマトグラフ分析方法	NBD-Cl 含浸 XAD-7(80 mg/40 mg) 0.2 L/min 50 min	溶媒脱着: テトラドロプラン(50 mg/mL NBD-Cl含有)	高速液体クロマトグラフ/蛍光検出器(HPLC-FL)	○	・高速液体クロマトグラフ分析の溶離液を逆相に変更した検証結果を評価として記載した。
トリプロモタン	75-25-2	0.5ppm	-	ヒトの事例で少量のトリプロモタン摂取でだるさ、頭痛、めまいが見られ、多量の摂取で意識喪失が見られた1)。 SIC: Wistar雌雄ラット(n=42)を対象として、雄ラットにはトリプロモタン0.068, 0.204, 0.612%を、雌ラットにはトリプロモタン0.072, 0.217, 0.651%を、マイクロカプセル化して粉末剤に1ヶ月間混餌投与した結果、雄ラット0.068%投与群以上と雌ラット0.217%投与群以上で肝臓の絶対重量の増加、雄ラット0.612%投与群以上で腎臓の絶対重量の増加が見られた。なお雄ラットのトリプロモタン0.068%投与群は、1日平均のトリプロモタン摂取量56.4mg/kg bw/dayに相当した2)。 CD-1雄マウス(n=35)にトリプロモタン0.50, 125, 250mg/kg bw/dayを14日間反復経口投与したところ、50mg/kg bw/day以上でプロトロンビン時間の減少、そして125mg/kg bw/day以上で肝障害が見られた3)。 F344/雄マウス(n=100)にトリプロモタン0, 100, 200mg/kgを週5日、103週間(2年間)強制経口投与したところ、雌雄ラット100mg/kg以上で体重減少と肝臓病変が見られ、またB6C3F1雄マウス(n=50)にトリプロモタン0, 50, 100mg/kgを、B6C3F1雌マウス(n=50)にトリプロモタン0, 100, 200mg/kgを、週5日、103週間(2年間)強制経口投与したところ、雌マウスの100mg/kg以上で肝臓の脂肪変化が見られた4)。 以上から、動物実験でのトリプロモタンのばく露によるLOAELを100mg/kg bw/dayと判断し、不確実係数等を考慮した0.5ppmを八時間濃度基準値として提案する。なお、短時間濃度基準値については、詳細な文献が不明であることから設定できない。		肝障害	ラット	01	von Oettingen WF; The halogenated aliphatic, Olefinic, cyclic, aromatic, and aliphatic-aromatic hydrocarbons, including the halogenated insecticides. Their toxicity and potential dangers, pp65-67. USPHS Pub No. 414 US Government Printing Office, Washington, DC (1955).		固体捕集 – ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管(100 mg/50 mg) : 0.01~0.2 L/min 20~7000 min	脱着溶媒: 二硫化炭素	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○	
								02	Aida Y, Takada K, Uchida O, Yasuhara K, Kurokawa Y, Tobe M. Toxicities of microencapsulated tribromomethane, dibromochloromethane and bromodichloromethane administered in the diet to Wistar rats for one month. J Toxicol Sci. 1992 Aug;17(3):119-33.							
								03	Munson AE, Sain LE, Sanders VM, Kauffmann BM, White KL Jr, Page DG, Barnes DW, Borzellica JF. Toxicology of organic drinking water contaminants: trichloromethane, bromodichloromethane, dibromochloromethane and tribromomethane. Environ Health Perspect. 1982 Dec;46:117-26.							
								04	National Toxicology Program. Toxicology and carcinogenesis studies of tribromomethane (bromoform) (CAS No. 75-25-2) in F344/N rats and B6C3F1 mice (gavage studies). NTP Tech Rep Ser No. 350, 1989.							
クロロジフルオロメタン	75-45-6	1000ppm	-	雌雄各80匹のWistarラットに0, 3,540, 35,400, 177,000 mg/m ³ のクロロジフルオロメタンを118~131 週間(5 時間/日、5 日/週)吸入させた結果、177,000 mg/m ³ 群で肝臓の絶対及び相対重量、腎臓、副腎、下垂体の絶対重量の有意な増加が認められた1)。 雌雄各80匹のSwissマウスに0, 3,540, 35,400, 177,000 mg/m ³ のクロロジフルオロメタンを83~94 週間(5 時間/日、5 日/週)吸入させた結果、177,000 mg/m ³ 群で自発運動の亢進が認められて、体重や主要な臓器等に異常はなかった2)。 以上の結果から、動物実験におけるNOAELは35,400mg/m ³ (= 10,000ppm)と判断し、不確実係数を考慮した1,000ppmを八時間濃度基準値として提案する。		肝障害、腎障害、副腎障害、下垂体障害	ラット	01	*Imperial Chemical Industries (ICI) (1981): Chlorodifluoromethane (CFC 22): Long-term Inhalation Study in the Rat, Unpublished Report No. CTI/P/548, ICI Ltd., Macclesfield, England, cited in U.S.EPA Integrated Risk Information System (IRIS), Chlorodifluoromethane; CASRN 75-45-6.		固体捕集 – ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管(400 mg/200 mg)とヤシ殻活性炭管(100 mg/50 mg)を連続する0.01~0.05 L/min 20~400 min	溶媒脱着: ジクロロメタン	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○	破過しやすいので、捕集管を直列に二つ接続して使用する。感度向上には、ECDを使用する。
								02	*Imperial Chemical Industries (ICI) (1981): Chlorodifluoromethane (CFC 22): Long-term Inhalation Study in the Mouse, Unpublished Report No. CTI/P/547, ICI Ltd., Macclesfield, England, cited in U.S.EPA Integrated Risk Information System (IRIS), Chlorodifluoromethane; CASRN 75-45-6.							

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値				文献調査結果					捕集法/分析法				
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解放	分析法	測定法の総合評価
プロモ(トリフルオロ)メタン	75-63-8	1000ppm	-	8人の男性ボランティアに4又は7%のプロモ(トリフルオロ)メタンを減圧チャンバー内で3分間ばく露した結果、全ばく露群で反応時間が増加した。一方、不整脈は認められなかつた1)。実験動物ではラット及びモルモット(雌雄各10匹)に5%のプロモ(トリフルオロ)メタンを1日24時間、10日間連続でばく露しても、何れ毒性影響は認められなかつた2)。以上の結果より、動物実験から50,000ppmをNOAELと判断し、不確実係数等を考慮した1,000ppmを八時間濃度基準値として提案する。	-	-	01	Call DW. A study of Halon 1301 (CBrF3) toxicity under simulated flight conditions. <i>Aerospace Med.</i> 1973 Feb;44(2):202-4.		固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管(400 mg/200 mg)とヤシ殻活性炭管(100 mg/50 mg)を連結する0.01~0.05 L/min 10~100 min(0.01 L/minの時), 2~20 min(0.05 L/minの時)	溶媒抽出: ジクロロメタン	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○	破過しやすいので、捕集管を直列につなぎ接続して使用する。感度向上には、ECDを使用する。
									McHale, E.T. Life support without combustion hazards. <i>Fire Technol</i> 1974;15:24.						
ジクロロジフルオロメタン	75-71-8	1000ppm	-	ボランティアに1,500、2,500、3,500ppmのジクロロジフルオロメタンを90分間/日、5日間/週で12週間反復ばく露した結果、1,500ppm群では影響は認められなかつたが、2,500及び3,500ppm群ではばく露(ばく露条件不明)した結果、器用さの低下、眠気、集中力の低下が認められた1)。2人の男性被験者に1,000及び10,000ppmで2.5時間/回を週に2回(火曜日1,000ppm+木曜日10,000ppm、あるいは火曜日10,000ppm+木曜日1,000ppm)、3週間にわたりばく露をしながら、水～金の日間、ばく露終了後に精神運動試験を実施した。その結果、1,000ppmのばく露では影響が認められず、10,000ppmのばく露は精神運動試験の結果に軽度の悪化が認められている2)。イクル(雌雄・性別不明)にジクロロジフルオロメタンを5分間ばく露し、エビネフリンの静脈内注射(8 µg/kg)を行なった場合、50,000ppmでは12匹中5匹に不整脈が出現したが、25,000ppmではこの変化は認められなかつた3)。以上より、ヒトの実験から2,500ppmをLOAELと判断し、不確実係数等を考慮した1,000ppmを八時間濃度基準値として提案する。	中枢神経症状	ヒト	01	Paulet G. Physiological action of chlorofluorinated hydrocarbons on the organism. <i>Aerosol report</i> . 1969; 8: 612-622.	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管(400 mg/200 mg)とヤシ殻活性炭管(100 mg/50 mg)を連結する0.01~0.05 L/min 100~400 min(0.01 L/minの時), 20~80 min(0.05 L/minの時)	溶媒脱着: ジクロロメタン	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○	破過しやすいので、捕集管を直列につなぎ接続して使用する。感度向上には、ECDを使用する。	
									Azar A, Reinhardt CF, Maxfield ME, Smith PE Jr, Mullin LS. Experimental human exposures to fluorocarbon 12 (dichlorodifluoromethane). <i>Am Ind Hyg Assoc J</i> . 1972 Apr;33(4):207-16.						
									Reinhardt CF, Azar A, Maxfield ME, Smith PE Jr, Mullin LS. Cardiac arrhythmias and aerosol "sniffing". <i>Arch Environ Health</i> . 1971 Feb;22(2):265-79.						
1,1,2-トリクロロ-1,2,2-トリフルオロエタン(別名: トリクロロトリフルオロエタン・CFC-113)	76-13-1	500ppm	1,500ppm	605~3,882 ppm(平均2,132ppm)の作業場で1日6時間、週15時間、5年間働いた2名の労働者に、GOT, GPTの軽度上昇と脂肪浸潤を伴う軽度な肝障害が観察された1)。平均濃度669ppm(範囲46~4,700ppm)の作業場で平均2.77年間働いている50名の男性労働者に臨床的および血液生化学的検査を行なった結果、とくにばく露によると思われる影響は観察されなかつた2)。4名の健康な男性に1日6時間、週5日間、第1週に500ppm、第2週に1,000 ppm×2週連続してばく露し、ばく露中に精神作業テストを行なった実験では、何等作業能力の低下はみられなかつた3)。健康な男性10名に、1,500、2,500、4,000、4,500 ppmを3時間ばく露し、精神作業テストを行なった実験では、2,500ppmで作業能力の軽度低下(約10%)、4,000ppmでは大幅な低下(20~40%)がみられたが、1,500ppmでは何等影響はみられなかつた4)。以上より、ヒトの研究結果からNOAELは669ppmと考えられ、不確実係数等を考慮した500ppmを八時間濃度基準値として提案する。また、ヒトの3時間ばく露による実験結果より、1,500ppmを短時間濃度基準値として提案する。	肝障害	ヒト	01	Lun A, Schmidt P. Leberschädigung durch 1,1,2-Trifluor-1,2,2-trichlorathan. <i>Dtsch Gesundh Wesen</i> 1979; 34: 1679-1682.	固体捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	Anasorb CMS(150 mg/75mg) 50 mL/min 20 min	溶媒脱着: 二硫化炭素	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○	破過しやすいので流速が遅く、短時間捕集である。感度の確認をすること	
									Imbus HR, Adkins C. Physical examination of workers exposed to trichlorotrifluoroethane. <i>Arch Environ Health</i> 1972; 24: 257-261.						
									Reinhardt CF, McLaughlin M, Maxfield ME, Mullin LS, Smith PE. Human exposure to Fluorocarbon 113 (1,1,2-trichloro-1,2,2-trifluoroethane) Am Ind Hyg Assoc J 1971; 32: 143-152.						
									Stopps GJ, McLaughlin M. Psychophysiological testing of human subjects exposed to solvent vapors. Am Ind Hyg Assoc J 1967; 28: 43-50.						
アクリル酸	79-10-7	2ppm	-	Fisher 344ラットはB6C3F1マウスに、アクリル酸を0.5、5、25、75 ppmの濃度で6時間/日、5日/週、13週間にわたり吸入ばく露した結果、ラットでは、NOAELは25 ppmと考えられた。マウスはアクリル酸蒸気に対し、ラットよりも感受性が高く、全てのばく露群で数例の動物に鼻粘膜の病理組織学的变化が観察された。5 ppm群では雄1/10例、雌4/10例に鼻粘膜の軽微な糜爛状態がみられ、25 ppmでは雄10/10例、雌9/10例で軽度な、75 ppmでは全ての動物に軽度から中等度の同病変が観察された。75 ppm群では病変部にさらさらと軽微な鼻粘膜下膜の過形成がみられた1)。アクリル酸を希釈せずに0.2, 2.5, 4.7, 8 mg/kgの用量で、妊娠ラットに妊娠5日、10日及び15日に腹腔内投与した試験において、4.7及び8 mg/kg投与群で外表異常を有する胎児数が有意に増加した。8 mg/kg群では胎児毒性もみられたが、NOAELの記載がない2)。以上より、鼻粘膜の変容等の病変に関する動物実験の結果からLOAELが5ppmと判断し、不確実係数等を考慮した2ppmを八時間濃度基準値として提案する。	鼻粘膜上皮の変性	マウス	01	Miller RR, Ayres JA, Jersey GC, McKenna MJ. Inhalation toxicity of acrylic acid. <i>Fundam Appl Toxicol</i> . 1981 May-Jun;1(3):271-7.	固体捕集-高速液体クロマトグラフ分析方法	Anasorb 708 捕集管(100 mg)を直列に2本接続する0.1 L/min 240 min	脱着溶媒: メタノール	高速液体クロマトグラフ-紫外外吸光度検出器(HPLC/UV)	○		
									Singh AR, Lawrence WH, Autian J. Embryonic-fetal toxicity and teratogenic effects of a group of methacrylate esters in rats. <i>J Dent Res</i> . 1972 Nov-Dec;51(6):1632-8.						
3-(アルファ-セトニルベンジル)-4ヒドロキシケミシン(別名: ワルファリン)	81-81-2	0.01mg/m ³	-	健常なラットやマウスを対象に、低用量のワルファリン0.2 mg/日および1 mg/日を投与した試験で、凝固因子活性およびビタミンK代謝への影響を調べたところ、1 mg/kgで平均プロトコル時間の有意な延長(0.9秒)がみられた。ワルファリンの初期用量は2~5 mgの範囲とされ、維持用量は通常2~10 mg/日で調整され、よって血液凝固に及ぼす臨床的に重要な影響に関するLOAELは2 mg/日である。以上より、ヒトの知見に基づき不確実係数等を考慮した0.01 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	血液凝固抑制	ヒト	01	Choonara IA, Malia RG, Haynes BP, Hay CR, Cholerton S, Breckenridge AM, Preston FE, Park BK. The relationship between inhibition of vitamin K1,2,3-epoxide reductase and reduction of clotting factor activity with warfarin. <i>Br J Clin Pharmacol</i> . 1988 Jan;25(1):1-7.	ろ過捕集-液体クロマトグラフ分析方法	PTFEフィルター、1.0L/min, 4時間可	メタノールで溶解	HPLC/UV	○		
トリエタノールアミン	102-71-6	1mg/m ³	-	雌Wistarラット各群10匹に0,20,100,500mg/m ³ のトリエタノールアミンによる6時間/日、5日/週、28日間のエアロゾル吸入ばく露試験では、20 mg/m ³ 以上の低濃度から100 mg/m ³ まで用量依存的に喉頭の局所炎症の発生が増加し、その重症度はグレード1から2であり重症度の増加はみられなかつた。また、5日間の用量設定試験で400 mg/m ³ 以上、28日間の試験で500 mg/m ³ 以上でグレード3の炎症が見られた1)。以上の結果より、動物実験によるLOAELを20mg/m ³ と判断し、不確実係数等を考慮した1mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	咽頭粘膜上皮炎症	ラット	01	Gamer AO, Rossbacher R, Kaufmann W, van Ravenwaay B. The inhalation toxicity of di- and triethanolamine upon repeated exposure. <i>Food Chem Toxicol</i> . 2008 Jun; 46(6): 2173-83.	ろ過捕集-ガスクロマトグラフ分析方法	グラスファイバーフィルター(Φ37 mm, 2ピース・フィルターカセット) 1 L/min 100 min	脱着溶媒: アセトン	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○		

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果							捕集法/分析法				
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解放	分析法	測定法の総合評価	備考
アリルアルコール	107-18-6	0.5ppm	-	雌雄ラット各24匹、雌雄モルモット各群9匹、雌雄ウサギ各群3匹および雌雄イヌ各群1匹（いずれも系統不明）に、2 ppmのアリルアルコールを、7時間/日、5日/週、6か月間吸入ばく露した結果、血中尿素窒素(BUN)が对照群に比して低値を示した以外、異常は認めなかった。また雌雄ラット各群5匹、雄モルモット各群4匹、雌ウサギ各群1匹に7ppmのアリルアルコールを、7時間/日、5日/週、5週間の吸入ばく露した結果、全ての動物に肝臓の病理組織学的変化を認めた ¹⁾ 。 ヒボランティア各群5～7人に、アリルアルコール0.78, 6.25, 12.5, 25 ppmを、5分間/日、1～3日/週、50日間以上（詳細な期間は不明）吸入ばく露した実験において、0.78 ppmで臭気が感知され、12.5 ppmで鼻に強い刺激を感じ、25 ppmで眼及び鼻に強い刺激を感じた ²⁾ 。 なお、雄マウスにおける揮発物質に関する職業ばく露限界値とRD ₅₀ は高い相関性($r = 0.78$)を示し、アリルアルコールについてはRD ₅₀ のデータより、職業ばく露限界値として0.05～0.1 ppmが推定されている ³⁾ 。 以上より、動物の結果からNOAELは2 ppmと判断し、また急性毒性が高いことやRD ₅₀ が比較的低いことから、不確実係数等を考慮した0.5 ppmを八時間濃度基準値として提案する。	肝障害、腎障害 ラット、モルモット、ウサギ	01 02 03	TORKELSON TR, WOLF MA, OYEN F, ROWE VK. Vapor toxicity of allyl alcohol as determined on laboratory animals. Am Ind Hyg Assoc J. 1959 Jun;20(3):224-9. DUNLAP MK, KODAMA JK, WELLINGTON JS, ANDERSON HH, HINE CH. The toxicity of allyl alcohol. I. Acute and chronic toxicity. AMA Arch Ind Health. 1958 Oct;18(4):303-11. Schape M;Schaper M. Development of a database for sensory irritants and its use in establishing occupational exposure limits. Am Ind Hyg Assoc J. 1993 Sep;54(9):488-544.		活性炭管(100 mg/50 mg) 0.05 L/min 200 min	脱着溶媒：ジクロロメタン：メタノール(95:5)(内部標準物質；2-エチル-1-ヘキサンオール)	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○				
m-フェニレンジアミン	108-45-2	0.1mg/m ³	-	SDラット（雌雄各20匹）にm-フェニレンジアミン水溶液を0、2、6、18 mg/kg bw/dayの用量で13週間経口投与した結果、18 mg/kg bw/day群で、雌雄ともに肝臓の絶対重量の有意な増加と肝細胞の核濃縮傾度の高値が、雌で腎臓重量の有意な増加がみられた。NOAELは6 mg/kg bw/dayと判断された ¹⁾ 。 m-フェニレンジアミンに5～10年ばく露した30～50歳の労働者112人（男性68人、女性44人）のうち、15人（13.4%）が排尿障害を訴え、9人（8%）がアルゲンのスクラッチテストで陽性または陽性疑いであった。作業者の尿中に好酸球の増加がみられ、尿中に0.3～40 µg/100 mLのm-フェニレンジアミンを検出した。また、膀胱鏡検査にて膀胱粘膜の浮腫や腫脹、好酸球の浸潤が認められた ²⁾ 。 以上より、動物実験の結果からNOAELが6mg/kg/dayと考えられ、不確実係数等を考慮した0.1 mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。	肝障害、腎障害 ラット	01 02	Hofer, H., Hruba, R.: Ninety-day oral toxicity of m-phenylenediamine in rats. E.I. Dupon De Nemores & Co., U.S.EPA/OPTS Public Files: Fiche No. OTS0528877, Doc. No. AR027-029. Orlov, N.S: Allergic cystitis of chemical etiology. Urol. I Nefrol., 1974, 4, 33-6. cited in IARC monographs on the evaluation of the carcinogenic risk of chemicals to man. Some aromatic amines and related nitro compounds - Hair dyes, coloring agents and miscellaneous industrial chemicals (Vol. 16). International Agency for Research on Cancer: 111-24 (1978)		ろ過(反応) 捕集 - 高速液体クロマトグラフ分析方法 硫酸含浸ガラス繊維フィルター 1 L/min 100 min	硫酸抽出: EDTA 溶液	高速液体クロマトグラフ-紫外吸光光度検出器(HPLC-UV)	○				
ジプロピレンギコールメチルエーテル	34590-94-8	50ppm	-	F344ラット（雌雄各10匹）およびNZWウサギ（雌雄各7匹）にジプロピレンギコールメチルエーテル（DPGME）を0, 15, 50または200 ppmの濃度で7時間/日、5日/週、13週間吸入ばく露したが、200ppmでも有意な影響は認められていない ¹⁾ 。 ラット（雌雄各20匹）、モルモット（雌雄各8匹）、サル（雌雄各1匹）（いずれも系統不明）にDPGMEを約300 ppmの濃度で、7時間/日、5日/週、6～8ヶ月間吸入ばく露した結果、ラットでは麻酔作用がばく露後30分程度、ばく露開始後数週間かられた。またモルモット、雌雄ウサギおよびサルで肝臓に軽度の組織学的变化（細胞質の顆粒化および大小の空泡）を認めていた。これら動物実験での最高濃度300～400 ppmはトトには不快であることから、体の不調がなく耐えられる濃度であれば、機器障害がなく安全と思われるとしている ²⁾ 。 以上より、動物実験の結果からNOAELを200 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した八時間濃度基準値50 ppmを提案する。なお、約300ppmのばく露によりラットに一過性的麻酔作用が見られたが、50ppmの八時間濃度基準値の設定により対応できると判断した。	麻酔作用、肝障害 ラット、モルモット、ウサギ、サル	01 02	Landry TD, Yano BL. Dipropylene glycol monomethyl ether: a 13-week inhalation toxicity study in rats and rabbits. Fundam Appl Toxicol. 1984 Aug;4(4):612-7. ROWE VK, McCOLLISTER DD, SPENCER HC, OYEN F, HOLLINGSWORTH RL, DRILL VA. Toxicology of mono-, di-, and tri-propylene glycol methyl ethers. AMA Arch Ind Hyg Occup Med. 1954 Jun;9(6):509-25.		ヤシ殻活性炭管(100 mg/50 mg) 0.1 L/min 100 min	脱着溶媒：ジクロロメタン：メタノール(95:5)(内部標準物質；3-オクタノール)	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○				
ジブチルスズ=ジラウラート	77-58-7	0.1mg/m ³ (スズとして)	-	雄のアルビノラット各3匹にジブチルスズジラウラート0.17.5mg/kg bw/日を15日間強制経口投与した結果、肝臓ミクロソーム酵素活性低下とヘムオキシダーゼ活性の低下が認められた ¹⁾ 。 雄ラット（系統不明）各群6匹にジブチルスズクリド(DBTC)を0,20,50,75,100ppm(0,0.7,1.3,1.9,2.6 mg/kg bw/日)に相当 ^{*1} を最大6か月間混餌投与した試験では、50ppm以上ばく露群では体重減少および剖検での胆管の肥厚、拡張が認められたが、20ppmばく露群では異常所見は認められなかつ ²⁾ 。 Wistarラット雌雄各20匹に0,50,150ppmのジブチルスズクリドを2週間混餌投与した試験では50ppm以上投与群で胸腺重量の有意な低下を認めた。なお、50ppm群での胆管の異常は見られなかつ ³⁾ 。 Fischer344ラットおよびB6C3F1マウスの雌雄各50匹(0,66.5,133ppm)のジブチルスズアセテートを78週間混餌投与したがん試験では、有意な発がんの知見は見られなかつ ⁴⁾ 。 ジブチルスズ化合物における神経影響にかかる知見は認められなかつ ⁵⁾ 。 以上より、動物試験の結果における胆管の病理学的变化を臨界影響としたNOAELを20ppm DBTC / kg bw/日(0.7 mg DBTC/kg bw/日)と判断し、不確実係数等を考慮した0.1mg Sn/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。 *1: ラットの体重を400gとして換算	胆管の病理学的变化 ラット	01 02 03 04 05	Mushtaq MM, Mukhtar H, Datta KK, Tandon SG, Seth PK. Toxicological studies of a leachable stabilizer di-n-butyltin dilaurate(DBTL): effects on hepatic drug metabolizing enzyme activities. Drug Chem Toxicol. 1981;4(1):75-88. BARNES JM, STONER HB. Toxic properties of some dialkyl and trialkyl tin salts. Br J Ind Med. 1958 Jan;15(1):15-22.	ろ過捕集-原子吸光分析方法 MCEフィルター；1 L/min, 500 L	トルエン 黒鉛炉原子吸光分析方法	○	・保存安定性試験の結果がないため、速やかに分析する ・検証データ数が少なく応急的な分析法であることに留意する。					
マレイン酸ジブチルスズ	78-04-6						ろ過捕集-原子吸光分析方法 MCEフィルター；1-2 L/min, 200 L以上	硫酸/30%過酸化水素/塩酸分解 黒鉛炉原子吸光分析方法	○	・保存安定性試験の結果がないため、速やかに分析する ・検証データ数が少なく応急的な分析法であることに留意する。						
ジブチルスズシクロリド	683-18-1						(ろ過+固体) 捕集-ガスクロマトグラフ分析方法 OV(Sガラス繊維ろ紙+XAD-2)	氷酢酸1%/アセトニトリル GC/FPD	○	・保存安定性試験の結果がないため、速やかに分析する						
ジブチルスズオキサイド	818-08-6						(ろ過+固体) 捕集-原子吸光分析方法 OV(Sガラス繊維ろ紙+XAD-2); 1-2 L/min, 100-250 L	氷酢酸10%/トルエン 黒鉛炉原子吸光分析方法	○	・保存安定性試験の結果がないため、速やかに分析する ・破過については後段の捕集剤か検出されるかどうか、測定時に確認する						
ジブチルスズ二酢酸	1067-33-0						Seinen W, Vos JG, van Spanje I, Snoek M, Brands R, Hooykaas H. Toxicity of organotin compounds. II. Comparative in vivo and in vitro studies with various organotin and organolead compounds in different animal species with special emphasis on lymphocyte cytotoxicity. Toxicol Appl Pharmacol. 1977 Oct;42(1):197-212.									
ジブチルスズビス(2-エチルヘキシルオキグリコレート)	10584-98-2						U.S. National Cancer Institute: Bioassay of Dibutyltin Diacetate for Possible Carcinogenicity. Carcinogenesis Technical Report Series No. 183. DHEW (NIH) Pub. No. 79-1739. NCI, Bethesda, MD (1979)									
ジブチルスズビス(イソオキチル=チオグリコレート)	25168-24-5						Boyer DJ. Toxicity of dibutyltin, tributyltin and other organotin compounds to humans and to experimental animals. Toxicology. 1989 May 15;55(3):253-298.	(ろ過+固体) 捕集-液体クロマトグラフ分析方法及び黒鉛炉原子吸光分光分析方法 グラスファイバーフィルター+XAD-2 捕集管(80 mg/40 mg) 1~1.5 L/min 33.4 ~ 500 min	脱着溶媒：アセトニトリル/黒鉛炉原子吸光分光分析方法 高純度液体クロマトグラフ-黒鉛炉原子吸光分光分析法(HPLC/GFAAS)	○	・本法の回収率は濃度基準値（参考）の1/10～2倍の濃度範囲であるが、評価は精度、偏り、正確さで示されている。 ・サンプリング後の輸送、及び保管は0℃を推奨する。					
無水マレイン酸	108-31-6	0.08mg/m ³	-	CDラット（雌雄、各15匹/群）、Engleハムスター（雌雄、各15匹/群）、アカゲザル（雌雄、各3匹/群）に無水マレイン酸を0, 0.27, 0.81, 2.4 ppm (0, 1.1, 3.3, 9.8 mg/m ³) の濃度で6か月間（5時間/日、5日/週）吸入曝露した。0.27 ppmで3種すべて鼻と眼に刺激性が認められた。また、鼻腔扁平上皮生じ及炎症も見られた。0.27 ppmに以上の所見は刺激作用を示唆している ¹⁾ 。 以上により、動物試験における鼻腔や眼に対する刺激作用を臨界影響としたLOAECを0.27 ppm (1.1 mg/m ³) として、不確実係数等を考慮した0.08mg/m ³ を八時間濃度基準値として提案する。なお、短時間濃度基準値については、文献が不十分であることから設定しないことを提案する。	粘膜刺激作用 ラット、ハムスター、アカゲザル	01	Short RD, Johannsen FR, Ulrich CE. A 6-month multispecies inhalation study with maleic anhydride. Fundam Appl Toxicol. 1988 Apr;10(3):517-524.	ろ過(反応) 捕集 - 高速液体クロマトグラフ分析方法 ペラトリアルアン含浸ガラス繊維フィルター 0.5 L/min 120 min	溶媒抽出：アセトニトリル/メタノール(90/10) 高速液体クロマトグラフ-紫外吸光光度検出器(HPLC-UV)	○	IFVの値として正確に評価するには、IFVサンプラーを用いる必要がある。					

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値				文献調査結果				捕集法/分析法				
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法
1,2,4-ベンゼントリカルボン酸 1,2-無水物	552-30-7	0.0005mg/m ³	0.002mg/m ³	<p>1,2,4-ベンゼントリカルボン酸1,2-無水物(TMA)粉末使用工場のばく露労働者を対象とした疫学調査の結果、人數をほぼ均等に3群に分けた場合、Cut off 値が1及び11.4 µg/m³となり、<1 µg/m³に対する呼吸器症状発症リスク(OR)は、1-11.4 µg/m³群が6.21 (95%CI: 1.07-36.02)、>11.4 µg/m³群では9.01 (95%CI: 1.35-60.05)と報告されている1)。</p> <p>TMA製造工場の労働者でTMAによる免疫学的疾患のいの1286名を対象に3年間観察した研究では、平均ばく露濃度0.00051mg/m³および0.00053mg/m³未満の群では血清アルブミン結合無水トリメチト酸(TM-HAS)に対するIgGまたはIgEの上昇を伴う呼吸器疾患を発症した者はなく、0.002 mg/m³では5%、0.036 mg/m³では4%、0.13 mg/m³では29%に、TM-HASに対するIgGまたはIgEの上昇を伴う呼吸器疾患の発症がみられた(発症例のなかった群のはく露濃度範囲上限は0.0024mg/m³であった)2)。</p> <p>SDラット各群10匹に0、0.002、0.015、0.05 mg/m³のTMAを6時間/日、5日/週、6.5週(32日、雄のみ)及び13週(65日、雌雄)吸入ばく露した試験では、6.5、13週間にばく露のいずれでも0.002 mg/m³群以上では血清特異抗体の有意な増加、肺の出血巣の増加がみられた3)。</p> <p>雌のBNラット(高用量2群は各群8匹、低用量2群は各群4匹)に、0.04、0.4、40mg/m³のTMAを10分間/回/週、10週間にばく露した実験(0.04、0.4、4mg/m³群では、最終ばく露の1週間後に40mg/m³を10分ばく露するチャレンジテストも実施)では、0.4mg/m³ばく露以上の群で血清中TMA特異的IgE抗体、気道抵抗の増加および好酸球性肉芽腫性肺炎が認められた4)。</p> <p>以上より、ヒトの知見での免疫学的機序による呼吸器所見を臨界影響としたNOAELを0.00051 mg/m³と判断し、0.0005 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。また、動物試験の結果より10分間にばく露でのNOAELを0.04 mg/m³と判断し、不確実係数等を考慮した0.002 mg/m³を短時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>・すでに感作された労働者については、濃度基準値よりも低い吸入濃度であっても喘息発作等を引き起こす可能性がある点に留意する必要がある。</p> <p>・25°Cの飽和蒸気圧における濃度換算値は0.00124mg/m³と濃度基準値(0.0005mg/m³)との比が2.48であることから、粒子と蒸気の両方を捕集できる捕集方法が必要である。</p>	<p>免疫学的機序による呼吸器所見</p> <p>ヒト、ラット</p>	<p>01</p> <p>02</p> <p>03</p> <p>04</p>	<p>Barker RD, van Tongeren MJ, Harris JM, Gardiner K, Venables KM, Newman Taylor AJ. Risk factors for sensitisation and respiratory symptoms among workers exposed to acid anhydrides: a cohort study. Occup Environ Med 1998; 55: 684-691.</p> <p>Grammer LC, Shaughnessy MA, Kenamore BD, Yarnold PR. A clinical and immunologic study to assess risk of TMA-induced lung disease as related to exposure. J Occup Environ Med 1999; 41: 1048-1051.</p> <p>Leach CL, Hatoum NS, Zeiss CR, Garvin PJ. Immunologic tolerance in rats during 13 weeks of inhalation exposure to trimellitic anhydride. Fundam Appl Toxicol. 1989; 12: 519-529.</p> <p>Zhang XD, Andrew ME, Hubbs AF, Siegel PD. Airway responses in Brown Norway rats following inhalation sensitization and challenge with trimellitic anhydride. Toxicol Sci 2006; 94: 322-329.</p>	<p>ろ過(反応) 捕集－高速液体クロマトグラフ分析方法</p>	<p>ペラトリルアミン及びフル酸ジ-n-オクチル含浸ガラス繊維フィルター 2.0 L/min 240 min</p>	<p>溶媒抽出: 0.02 N 水酸化アンモニウム溶液</p>	<p>高速液体クロマトグラフ-紫外吸光度検出器(HPLC-UV)</p>	<p>○</p> <p>IFVの値として正確に評価するには、IFVサンプラーを用いる必要がある。</p>	
ヘキサメチレン=ジイソシアネート(HDI)	822-06-0	0.005ppm	-	<p>F344ラット雌雄各60匹に、0, 0.005, 0.025, 0.175 ppmのHDIを6時間/日、5日/週、2年間に吸入曝露試験で、0.175 ppm群で軽度の貧血と体重抑制(雌)、0.025 ppm以上で呼吸上皮の角化亢進と喫上皮の変性が見られ、0.005 ppmがNOAELであった1,2)。</p> <p>ヒトの喘息症例や呼吸器影響に関する疫学研究はあるが、濃度基準値設定に資するばく露濃度情報は不十分である。</p> <p>以上より、動物実験におけるラット鼻腔の変性を臨界影響としたNOAELを0.005 ppmと判断し、八時間濃度基準値として提案する。なお、短時間濃度基準値については、文献が不十分であることから設定しないことを提案する。</p>	<p>HDIは、TDIやMDI同様の喘息や呼吸器影響を起こす。当面0.005ppmを採用することは、TDIおよびMDIのばく露限界値と対応する等モル濃度であり、妥当と考える。</p> <p>ヒトの喘息症例や呼吸器影響に関する疫学研究はあるが、濃度基準値設定に資するばく露濃度情報は不十分である。</p> <p>以上より、動物実験におけるラット鼻腔の変性を臨界影響としたNOAELを0.005 ppmと判断し、八時間濃度基準値として提案する。なお、短時間濃度基準値については、文献が不十分であることから設定しないことを提案する。</p>	<p>鼻腔の変性</p> <p>ラット</p>	<p>01</p> <p>02</p>	<p>Shiotsuka RN. Chronic inhalation toxicity and oncogenicity study with 1,6-hexamethylene diisocyanate (HDI) in rats. Study No. 83-241-01, Toxicology Report No. 1157, 1989.</p> <p>Foureman GL, Greenberg MM, Sangha GK, Stuart BP, Shiotsuka RN, Thyssen JH. Evaluation of nasal tract lesions in derivation of the inhalation reference concentration for hexamethylene diisocyanate. Inhalat Toxicol. 1994; 6: 341-355.</p>	<p>ろ過(反応) 捕集－高速液体クロマトグラフ分析方法</p>	<p>1-(2-ピリジル)ビペラジン含浸ガラス繊維フィルター 1 L/min 15 min</p>	<p>高速液体クロマトグラフ-紫外吸光度検出器(HPLC/UV) 脱着溶媒: アセトニトリル/ジメチルスルホキシド(90: 10)</p>	<p>高速液体クロマトグラフ-蛍光検出器(UHPLC/FL)</p>	<p>○</p> <p>イソシアネートの国の公示法だが、捕集用試薬が要求され、冷凍であり、保存期間が短い。</p>	
3-イソシアナトメチル-3,5,5-トリメチルシクロヘキシル=イソシアネート(イソホロンジイソシアネート、IPDI)	4098-71-9	0.005ppm	-	<p>イソホロンジイソシアネート(IPDI)のデータは不足だが、主な影響はヘキサメチレンジイソシアネート(HDI)と同等の刺激性があることから、HDIの知見で評価した。F344ラット雌雄各60匹に、0, 0.005, 0.025, 0.175 ppmのHDIを6時間/日、5日/週、2年間に吸入曝露試験で、0.175 ppm群で軽度の貧血と体重抑制(雌)、0.025 ppm以上で呼吸上皮の角化亢進と喫上皮の変性が見られ、0.005 ppmがNOAELであった1)。</p> <p>以上から、動物実験における鼻腔の変性を臨界影響としたNOAELを0.005 ppmと判断し、八時間濃度基準値を提案する。なお、短時間濃度基準値については、文献が不十分であることから設定しないことを提案する。</p>	<p>IPDIは、HDIと同様にTDIやMDI同様の喘息や呼吸器影響を起こす。当面0.005ppmを採用することは、TDIおよびMDIのばく露限界値と対応する等モル濃度であり、妥当と考える。</p> <p>ヒトの喘息症例や呼吸器影響に関する疫学研究はあるが、濃度基準値設定に資するばく露濃度情報は不十分である。</p> <p>以上から、動物実験における鼻腔の変性を臨界影響としたNOAELを0.005 ppmと判断し、八時間濃度基準値を提案する。なお、短時間濃度基準値については、文献が不十分であることから設定しないことを提案する。</p>	<p>鼻腔の変性</p> <p>ラット</p>	<p>01</p>	<p>ECB (European Chemicals Bureau) (2000b) 3-Isocyanatomethyl-3,5,5-trimethylcyclohexyl isocyanate.IUCLID dataset, 18.02.2000, ECB, Ispra, Italy</p>	<p>ろ過(反応) 捕集－高速液体クロマトグラフ分析方法</p>	<p>1-(2-ピリジル)ビペラジン含浸ガラス繊維フィルター 1 L/min 15 min</p>	<p>溶媒抽出: アセトニトリル/ジメチルスルホキシド(90/10)</p>	<p>高速液体クロマトグラフ-蛍光検出器(HPLC-FL)</p>	<p>○</p> <p>イソシアネートの国の公示法だが、捕集用試薬が要求され、冷凍であり、保存期間が短い。</p>	
ジシクロベタジエン	77-73-6	0.5ppm	-	<p>ヒトへの影響として、2人の男性の被験者に1 ppmと5.5 ppmのジシクロベタジエンを30分間に吸入曝露させた。実験では、被験者の1人は1 ppm、7分間にばく露後に眼と喉に軽い刺激を感じ、もう1人は5.5 ppm、10分間にばく露後に眼への刺激がみられた1)。</p> <p>B6C3F1雌雄マウス各群10匹にジシクロベタジエン0、5.1、33.0、99.9 ppm(実測値)を9日間(6時間/日)吸入曝露させた。99.9 ppmで全例が4日以内に死亡、33.0 ppmで雌雄に常同行動が認められた2)。</p> <p>以上より、動物実験における常同行動を臨界影響として、NOAELを5 ppmと判断し、不確実係数等を考慮した0.5 ppmを八時間濃度基準値として提案する。なお、短時間濃度基準値については、文献が不十分であることから設定しないことを提案する。</p>	<p>IPDIは、HDIと同様にTDIやMDI同様の喘息や呼吸器影響を起こす。当面0.005ppmを採用することは、TDIおよびMDIのばく露限界値と対応する等モル濃度であり、妥当と考える。</p> <p>ヒトの喘息症例や呼吸器影響に関する疫学研究はあるが、濃度基準値設定に資するばく露濃度情報は不十分である。</p> <p>以上から、動物実験における鼻腔の変性を臨界影響としたNOAELを0.005 ppmと判断し、八時間濃度基準値を提案する。なお、短時間濃度基準値については、文献が不十分であることから設定しないことを提案する。</p>	<p>中枢神経症状(常同行動)</p> <p>マウス</p>	<p>01</p> <p>02</p>	<p>Kinkead ER, Pozzani UC, Geary DL, Carpenter CP. The mammalian toxicity of dicyclopentadiene. Toxicol Appl Pharmacol. 1971 Dec;20(4):552-561.</p> <p>Busby Run Research Center: Acute and subacute inhalation toxicity of dicyclopentadiene in rats and mice. HSE-81-0117(1981). 8EHQ-0292-2306. Submitted under TSCA Section 8(e) to US EPA by Shell Oil Co, Houston, TX (1992).</p>	<p>固体捕集－ガスクロマトグラフ分析方法</p>	<p>Chromosorb 106(300 mg) 5 mL/min 30 min</p>	<p>ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)</p>	<p>○</p> <p>加熱脱着法が用いられているが、溶媒脱着法を用いた分析方法について検証結果を示す。</p>		
りん酸トリ-n-ブチル	126-73-8	5mg/m ³	-	<p>雌雄のSDラット各群50匹にりん酸トリ-n-ブチルを200、700、3,000 ppmの濃度で2年間に混餌投与した試験では、700 ppm以上の雌で体重增加抑制が、さらに雌雄で膀胱の上皮過形成、乳頭腫、移行上皮がんが認められ、NOELは200 ppm(吸入に換算すると、雌: 12 mg/kg bw/日、雄: 9 mg/kg bw/日)であった1)。</p> <p>以上より、動物実験の結果において膀胱の腫瘍性病変を臨界影響としたNOAELを9 mg/kg bw/日と判断し、不確実係数等を考慮した5mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>25°Cの飽和蒸気圧における濃度換算値は16.2mg/m³と濃度基準値(5mg/m³)との比が3.24であることから、粒子と蒸気の両方を捕集できる捕集方法が必要である。</p>	<p>膀胱の腫瘍性病変</p> <p>ラット</p>	<p>01</p>	<p>Auletta CS, Weiner ML, Richter WR. A dietary toxicity/oncogenicity study of tributyl phosphate in the rat. Toxicology. 1998 Jul 3;128(2):125-134.</p>	<p>(ろ過+固体) 捕集－ガスクロマトグラフ分析方法</p>	<p>ガラス繊維フィルターと Chromosorb 106を連絡する 1.5 L/min 120 min</p>	<p>溶媒抽出/脱着: ジクロロメタン</p>	<p>ガスクロマトグラフ-質量分析器(GC-MS)</p>	<p>○</p> <p>・検証結果により評価 ・捕集後、速やかに測定する</p>	
O-エチル=O-4-ニトロフェニル=フェニルホスホノチオアート(別名: EPN)	2104-64-5	0.1mg/m ³	-	<p>5名の囚人ボランティア(23~36歳)に、EPN 3 mg/日を32日間反復経口投与したこと、血漿及び赤血球コレーストロール(CHE)活性の10%超の低下および臨床症状は共に認められず、3週間後にEPN 6 mg/日に增量し7日間反復経口投与したこと、血漿及び赤血球CHE活性の低下および臨床症状はともに認められなかった。新規の5名の囚人ボランティアに、EPN 9 mg/日を56日間反復経口投与したこと、血漿CHE活性は投与開始2週目から低下し、赤血球CHE活性は投与後半以降低下し、投与終了3週間後も低値は持続した1)。</p> <p>以上より、ヒトの知見から赤血球CHE活性低下を臨界影響としたNOAELを6mg/日と判断し、不確実係数等を考慮した0.1 mg/m³を八時間濃度基準値として提案する。</p>	<p>25°Cの飽和蒸気圧における濃度換算値は0.016 mg/m³と濃度基準値(0.1mg/m³)との比が0.16であることから、粒子と蒸気の両方を捕集できる捕集方法が必要である。</p>	<p>赤血球CHE活性</p> <p>ヒト</p>	<p>01</p>	<p>MOELLER HC, RIDER JA. Plasma and red blood cell cholinesterase activity as indications of the threshold of incipient toxicity of ethyl-p-nitrophenyl thionobenzene phosphonate (EPN) and malathion in human beings. Toxicol Appl Pharmacol. 1962 Jan;4:123-130.</p>	<p>(ろ過+固体) 捕集－ガスクロマトグラフ分析方法</p>	<p>ガラス繊維フィルター 1~2 L/min 7.5~700 min</p>	<p>溶媒抽出: イソオクタン</p>	<p>ガスクロマトグラフ-炎光度検出器(GC-FPD)</p>	<p>○</p> <p>・ろ過捕集であるため、蒸気状のEPNは捕集できない。 ・検出器をMSとして検討を行った結果により評価を記載した。</p>	
六塩化ブタジエン	87-68-3	0.01ppm	-	<p>雌雄のSDラット各群40匹に六塩化ブタジエンを0、0.2、2.0、20 mg/kg/dayの用量に調整して2年間に混餌投与した。結果は、20 mg/kg/dayにおいて、雌雄の体重增加抑制、雄の腎臓の重量増加および雌雄の腎尿細管上皮過形成および腫瘍の増加等が認められた。また、2.0 mg/kg/dayにおいて、腎臓の軽度の機能低下が認められた1,2)。</p> <p>以上より、動物実験における腎臓障害を臨界影響とした</p>										

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値				文献調査結果					捕集法/分析法							
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解法	分析法	測定法の総合評価	備考		
プロピレングリコールモノメチルエーテル	107-98-2	50ppm	-	ヒトボランティア6名にプロピレングリコールモノメチルエーテル (PGME) をばく露した試験では、濃度50ppmに1時間ばく露した実験（1名）では、ばく露開始直後は中程度の強さではあるが不快ではない臭を感じ、1時間のばく露中に嗅覚が鈍くなつたが、ばく露終了時にはまだ臭いを感じられた。濃度100ppmに3.5時間ばく露した実験では、ばく露1~2時間後6名中2名に眼刺激症状が出現した。濃度100ppmの臭いは、ばく露開始直後はかなり耐え難いものであったが、25分後には耐えられるものになつた1）。またこれら両試験では視覚検査、協調運動検査、神経学的検査に異常は認められなかつた。 ヒト鼻粘膜細胞に100ppmおよび1,000ppmのPGMEを4時間および24時間ばく露したin vitro実験では100ppm×4時間ばく露により炎症性サイトカイン遺伝子の転写が誘発された2）。 以上のとおり、ヒトの知見において眼刺激性を臨界影響としたNOAELを50ppmと判断し、50ppmを八時間濃度基準値として提案する。なお、根拠論文2）にあるin vitro試験の結果を考慮しても、50ppmであれば鼻粘膜における炎症反応を誘導する可能性は少ないと考えられる。	業性ばく露限界値を提案する機関の中には短時間ばく露限界値として100ppmを提案している機関もあるが、短時間濃度基準値を提案する十分な根拠はないとした。	眼刺激性	ヒト	01	Stewart RD, Baretta ED, Dodd HC, Torkelson TR. Experimental human exposure to vapor of propylene glycol monomethyl ether. Experimental human exposure. Arch Environ Health. 1970 Feb;20(2):218-223.	固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	活性炭管(100 mg/50 mg) 0.1 L/min 100 min	溶媒脱着；ジクロロメタン/メタノール(95/5)	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○				
								02	Brieger J, Mutray A, Jung D, Letzel S, Mann WJ, Gosepath J. Early stress response of human nasal respiratory epithelia after exposure to 1-methoxypropanol-2. Toxicol Lett. 2008 Mar 15;177(2):138-143.									
ジエチルアミン	109-89-7	5ppm	15 ppm	24~54歳のヒト（女性1名、男性6名）で、0~12 ppm（平均10 ppm）で60分間ばく露により眼や鼻への刺激性がみられた1）。25 ppmで15分間のばく露により急性鼻粘膜反応は認めなかつた。 雌雄F344ラット各群50匹にジエチルアミンを0、31、62.5、125 ppmで6時間/日、5日/週、105週間吸入ばく露させた結果、雌のすべてのばく露群で肺胞のマクロファージ浸潤、125 ppm群で肺の炎症の増加、体重増加量の低値、眼の損傷、炎症・潰瘍・過形成・化生を含む呼吸および嗅覚上皮の変化、鼻甲介の壊死、杯細胞の過形成を認めた2）。 雌雄B6C3F1マウス各群50匹に0、10、31、62.5 ppmでばく露させた結果、62.5 ppm群で眼の損傷と上気道および肺と同様な変化を認めた2）。 以上より、低濃度反復ばく露による呼吸器への刺激性を臨界影響としたLOAELを31ppmと判断し、不確実係数等を考慮した5 ppmを八時間濃度基準値として、また高濃度の一過性の刺激性のリスクを最小化するため、15ppmを短時間濃度基準値として提案する。	呼吸器刺激性	ヒト、ラット、マウス	01	Lundqvist GR, Yamagiwa M, Pedersen OF, Nielsen GD. Inhalation of diethylamine--acute nasal effects and subjective response. Am Ind Hyg Assoc J. 1992 Mar;53(3):181-185.	固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	Anasorb CSC(100 mg/50 mg) 50 mL/min 80 min	溶媒脱着；二硫化炭素	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○					
ノルマル-ヘプタン	142-82-5	500ppm	-	ヒトでは、1,000 ppmを6分間吸入するとわずかなめまいが生じ、高濃度を短時間吸入すると顕著なめまい、協調運動障害、気持ちの高揚が発生した。これらの神経症状は、顕著な粘膜刺激性がない用量で発生した。また、5,000 ppmの短時間のばく露（4分間）では、吐き気、食欲不振が見られ、ばく露数時間後までガソリン様の味覚が継続した1）。Long Evans雄ラットにn-ヘプタンを800および4,000 ppmで28日間（6時間/日）ばく露した結果、4,000 ppmでは、ばく露終了2か月後に聴性脳幹反応が有意に低下した。800 ppmでは1/11例で、4,000 ppmでは9/10例で、聴覚の閾値が10dB増加した2）。 マウスにn-ヘプタンを8,157~24,801 ppmでばく露した結果、呼吸数の減少が見られ、呼吸量が50%減少するRD ₅₀ は17,400 ppm (0~10 分ばく露時)または15,600 ppm (21~30 分ばく露時)と推定された3）。 上記3）動物実験で得られたRD ₅₀ 個を作業者に外挿すると、係数として「0.03」を乗することにより算出され4）、ヘプタンの作業者RD50値は520 ppmと推定されることより、ヒトの気道刺激性を防ぐための濃度として500ppmを八時間濃度基準値として提案する。	呼吸器刺激性	マウス	01	Patty,F.A.; Yant,W.P.Odor Intensity and Symptoms Produced by Commercial Propane, Butane, Pentane, Hexane, and Heptane Vapor US Bureau of Mines Report, Report of Investigations Investigation No 2979 U.S. Dept of Commerce, Bureau of Mines, Washington,DC (1929)										・捕集後、速やかに分析する
2-クロロ-1,1,2-トリフルオロオキシルジフルオロメチルエーテル（別名：エンフルラン）	13838-16-9	20ppm	-	手術室7箇所（一般外科、小児外科、整形外科、口腔外科、血管外科、婦人科、泌尿器科）の室内エンフルラン平均濃度は0~22.6 ppmの範囲で、その中で働いていたばく露群（外科手術チーム（外科医または手術看護師）29人、麻酔科医32人）と、非ばく露群（病棟看護師87人、放射線科スタッフ69人）の血液学的検査、血清蛋白質分画、肝機能検査において、ばく露群と非ばく露群の間で平均値および有所見率の有意な違いは見られなかつた1）。 雌のSDラット各群12匹に49日間（28日ばく露後にチャンバー外で雄と交配あり）、また雄のSDラット各群12匹に100日間（63日ばく露後にチャンバー外で雌と交配あり）、エンフルラン200 ppm（1濃度のみ）を8時間/日、5日間/週ばく露した結果、両親ともに臨床的症状は認められず、肝臓、肺、腎臓、精巣、脾臓に病理組織学的な異常所見は認められなかつた2）。 以上のとおり、ヒトの知見における血液学的異常、血清蛋白質分画異常、肝機能障害を臨界影響としたNOAELを22ppmと判断し、20ppmを八時間濃度基準値として提案する。なおこの値は、根拠論文2）の動物試験に基づくNOAEL=200ppmから不確実係数等を考慮して得られる値としても妥当であると判断した。	血液学的異常、血清蛋白質分画異常、肝機能障害	ヒト	01	De Zotti R, Negro C, Gobbato F. Results of hepatic and hemopoietic controls in hospital personnel exposed to waste anesthetic gases. Int Arch Occup Environ Health. 1983;52(1):33-41.	固体（反応）捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	Anasorb 747 捕集管(140/70 mg) 0.05 L/min 15~240 min	脱着溶媒：二硫化炭素(内部標準物質；n-デカン)	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○					・他に使用可能な捕集管は、Anasorb csc(100 mg/50 mg)である。 ・捕集流速が遅いため、精度には注意が必要である。
ニトログリセリン	55-63-0	0.01ppm	-	ニトログリセリンとニトログリコールの混合ばく露を受けている弾薬庫労働者のボランティアについて、ニトログリセリン・ニトログリコール平均濃度2 mg/m ³ にばく露された6人中5人が3分以内に血圧低下と著明な頭痛、0.7mg/m ³ にばく露された10名全員が25分以内に血圧低下と軽度の頭痛、0.5 mg/m ³ にばく露された7名でも全員が25分以内に血圧低下と軽度の頭痛が認められている1）。 上記1）に対するサポートデータにて、ニトログリセリンのみが吸われる製薬業においては、職場における呼吸域のニトログリセリン濃度は0.03~0.11 ppmであり、週に~3回の作業（ニトログリセリンへの間歇的なばく露、と表現）で頭痛および刺激性が生じた。なお、作業環境の改善により呼吸域の濃度が0.01 ppm (0.093mg/m ³)を下回った結果、頭痛は回復したと報告している2）。 以上のとおり、ヒトの知見の結果から、血管拡張作用（頭痛および血圧低下）を臨界影響としたNOAELを0.01ppmと判断し、0.01ppmを八時間濃度基準値として提案する。	血管拡張作用（頭痛および血圧低下）	ヒト	01	Trainor DC, Jones RC. Headaches in explosive magazine workers. Arch Environ Health. 1966 Feb;12(2):231-4.									・ECDの直線範囲に依存する。捕集時間が長いときは、試料を希釈して対応する。 ・GC法はパックドカラム及びECDによる方法であり、キャビリカラムでの分析を行う際は検討をする。 ・ニトログリセリンは皮膚接着剤として吸入から防護する。 ・作業中は眼を保護する。	
							02	Hanlon, J.J. and Fredrick, W.G. (1966) Great lead controversy. Arch. Environ. Health, 12, 676	固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	Tenax-GC(100 mg/50 mg) 0.2~1.0 L/min (4時間で96~240L)	エタノール 2mL	ガスクロマトグラフ/ECD分析方法 カラム材質ガラス； 1 m x 4-mm, 内径2-mm；液相 10% OV-17 固定相 : 60/80 mesh Gas Chrom Q	○					

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値			文献調査結果						捕集法/分析法							
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解放	分析法	測定法の総合評価	備考		
ジエチル-パラ-ニトロフェニル チオホスフェイト（別名パラチオン）	56-38-2	0.05mg/ m ³	-	パラチオン製造工場での6か月以上にわたり測定したパラチオンの気中濃度は0.1~0.8mg/m ³ （平均0.2~0.3mg/m ³ ）であった。ここで働く従業員13名について、赤血球および血漿コレステラーゼ活性を測定している。うち1名はパラチオンばく露が無かった者であり、この作業者との比較では他12名のコレステラーゼ阻害は顯著ではなかったものの、この工場でパラチオン製造を止め5ヶ月後の測定ではほぼ全例にコレステラーゼ活性の回復が認められた。結論として、0.2~0.8mg/m ³ の範囲のパラチオンの継続的なばく露は危険であるとしている1)。	コレステラーゼ活性阻害	ヒト	01	BROWN HV, BUSH AF. Parathion inhibition of cholinesterase. Arch Ind Hyg Occup Med. 1950 Jun; 1(6):633-6.		(ろ過+固体) 捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	OVS-2(石英フィルター、XAD-2 : 270 mg/140 mg) 0.2~1 L/min 12~1200 min	脱着溶媒: 90%トルエン/10%アセトンの混合溶液(内部標準物質: リン酸トリフェニル、場合によって添加する)	ガスクロマトグラフ-炎光度検出器(GC/FPD)	○				
				パラチオンに反応ばく露された作業者115名の調査から、尿中p-ニトロフェノール排泄量が約2.0mg/Lの場合、軽度のコレステラーゼ活性低下のみが認められている。この尿中p-ニトロフェノール排泄量約2.0mg/Lは気中濃度0.2mg/m ³ に相当するとしている2)。			02	ARTERBERRY JD, DURHAM WF, ELLIOTT JW, WOLFE HR. Exposure to parathion. Measurement by blood cholinesterase level and urinary p-nitrophenol excretion. Arch Environ Health. 1961 Oct; 3:476-85.										
3-アミノ-1H-, 2, 4-トリアゾール (別名アミトロール)	61-82-5	0.2mg/m ³	-	雌雄のラット（雌雄、頭数、系統不明）に対し混餌濃度0.1, 10, 50および100 ppmで2年間の発がん性試験を行った結果、50 ppmばく露群15検体のうち2検体、また100ppmばく露群26検体のうち7検体で甲状腺の腺腫様変化を認めた。なお50ppmばく露群および100 ppmばく露群のそれぞれ1,4検体については、腫瘍または非悪性腫瘍との意見が分かれている所であった1)。	甲状腺おおび下垂体の腫瘍性変化	ラット	01	JUKES TH, SHAFFER CB. Antithyroid effects of aminotriazole. Science. 1960 Jul 29; 132(3422):296-7.		液体捕集 - 高速液体クロマトグラフ分析方法	バブラー(15mL 超純水) 1.0 L/min 60 min	15 mL の水で通気後、水で洗い込む	高速液体クロマトグラフ-紫外吸光度検出器(HPLC/UV)	○	・サンプリングは液体捕集方法のため、作業者の安全に留意する必要がある。 ・高速液体クロマトグラフ分析の溶離液を変更した検証結果を評価として記載した。 ・保存安定性の情報がないため、できるだけ速かに分析する。			
				雌雄のラット（系統不明）各群5匹に対する混餌濃度0.1, 1, 10および100 ppm(総投与量：雄0.06, 0.6および5.8 g/kg, 雌0.08および1.9 g/kg)で38か月間(最大1143日)の生涯投与試験を行った結果、100 ppmばく露群で囊胞状に拡張した甲状腺滤泡細胞の増加、甲状腺下垂体の腫瘍発生頻度が増加した2)。			02	Steinhoff D, Weber H, Mohr U, Boehme K. Evaluation of amitrole (aminotriazole) for potential carcinogenicity in orally dosed rats, mice, and golden hamsters. Toxicol Appl Pharmacol. 1983 Jun 30; 69(2):161-9.										
1,2,3,4,10,10-ヘキサクロ-6-エボキン-1,4,4a,5,6,7,8,8a-オクタヒドロ-エンド-1,4-エンド-5,8-シメタノナフタレン（別名エンドリン）	72-20-8	0.1mg/m ³	-	28日齢のCarworth(=Wistar)ラットの雌雄各々20匹ずつに対して0, 1, 5, 25, 50, 100 ppmのエンドリン含有飼料を2年間与えた実験では、50及び100 ppm投与群では外的刺激に対する過剰反応(=易興奮性)、たまに痙攣を生じるなどが観察され、数週間以内で死に至った。25ppm投与群の雌は死亡率が高くなつた。また25, 50, 100 ppm投与群で死亡したラットには、脳、肝臓、腎臓、副腎にひまわりの変性が見られた。50, 100ppm投与群の生存ラットには肝臓のみに変性が認められ、0, 1, 5, 25ppm投与群との生存ラットの内臓は正常であった。5ppmでは体重に対する肝重量比が雌で、腎重量比が雄で増加した。1ppm投与群では影響は見られなかった1)。	神経毒性と肝毒性	ラット	01	Treon JF, Cleveland FP, and Cappel J. Pesticide Toxicity, Toxicity of Endrin for Laboratory Animals. Journal of Agricultural and Food Chemistry 1955 3 (10), 842-8.		(ろ過+固体) 捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	セルロースエチルメンブレンフィルター + Chromosorb 102(100 mg/50 mg) 0.5~1 L/min 24~800 min (0.5 L/min の時), 12~400 min (1 L/min の時)	溶媒抽出/脱着: トルエン	ガスクロマトグラフ-電子捕獲型検出器(GC-ECD)	○	インハラブル粒子の値として正確に評価するには、IOMサンプラーはIFVサンプラーを用いる必要がある。			
トリメチルアミン	75-50-3	3ppm	-	1群雄各10匹のCrI:CD(SD)BRラットにトリメチルアミンのガスを0, 75, 250および750 ppmの濃度で2週間(6時間/日、5日/週)鼻部曝露した結果、750 ppm曝露群において体重減少、250 ppm曝露群において赤血球数増加が認められた。また、全曝露群で鼻粘膜の浮腫を伴う充血およびうっ血、鼻粘膜の扁平上皮化生、鼻腔内炎症性分泌物などの刺激症状が認められた1)。			01	Kinney LA, Burgess BA, Chen HC, Kennedy GL. Inhalation toxicology of trimethylamine. Inhal Toxicol 2: 41-51 (1990)		固体(反応) 捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	リン酸含浸 XAD-7(80 mg/40 mg) 0.1 L/min 100 min	溶媒脱着: メタノール/水(1/1)	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○				
テトラエトキシシラン	78-10-4	10ppm	-	この動物実験に従事した作業者が、動物にばく露したテトラエトキシシラン(85, 250, 700, 1,200, 3,000ppm)のそれぞれの濃度に短時間ばく露した際の刺激性に係る記載があり、85ppmでは臭氣のみであったが250 ppmで軽度の眼と鼻の刺激が認められ、刺激は濃度依存的に増強した。著者らは700ppmのばく露ではヒトは30分以上は耐えられないとしている1)。	鼻部の炎症および赤血球系の異常	マウス	01	Smyth HF, Seaton J (1940) Acute response of guinea pigs and rats to inhalation of the vapors of tetraethyl orthosilicate (ethyl silicate). J Ind Hyg Toxicol 22: 288-96.										
				雄Wistarラットに対して、125 ppm のテトラエトキシシランを5, 10, 15回（各2匹）、25回（4匹）、30回（10匹）、各回7時間吸入ばく露した結果、病理組織学的に軽度～中程度の腎障害がみられている2)。			02	Rowe VK, Spencer HC, Bass SL. Toxicological studies on certain commercial silicones and hydrolyzable silane intermediates. J Ind Hyg Toxicol. 1948 Nov; 30(6):332-52.										
				雄ICRマウス各群10匹に50および100 ppmのテトラエトキシシラン蒸気を、6時間/日、5日/週、4週間吸入ばく露した結果、50 ppmで鼻部の炎症が、100 ppmでは腎臓への影響がみられた。また、血液検査の結果、50 ppmばく露群において、赤血球、ヘモグロビン、ヘマクリットの値が有意に減少したが、その変化は軽度であつた3)。			03	Omae K, Nakashima H, Takebayashi T, Uemura T, Ishizuka C, Yamazaki K, Sakurai H. No-effect level of subacute tetraethoxysilane inhalation on the mouse kidney. Sangyo Eiseigaku Zasshi. 1995 Jan; 37(1):1-4.										
プロピオン酸	79-09-4	10ppm	-	男性11名、女性12名のボランティアが参加する、三叉神経を介した刺激の指標(不快臭い、瞬きの回数、神経性炎症マーカー)を用いた4時間の室内空気中ばく露実験で、最高ばく露濃度10 ppmまで有意な変化を示さず、NOAELは10 ppm以上であると推測される1)。	三叉神経を介した刺激	ヒト	01	HVBG (Hauptverband der Gewerblichen Berufsgenossenschaften) (2007) Endbericht zum Verbundprojekt "Abgrenzung und Differenzierung irritativer und belästigender Effekte von Gefahrenstoffen" (FF228) (Final report for the network project "Limitation and differentiation of irritative and annoying effects of hazardous substances" (FF228)) (German), IfAdo, Institut für Arbeitsphysiologie an der Universität Dortmund das ist kein Buch		固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	シリカゲル捕集管(520 mg/260 mg) 0.2 L/min 90 min	脱着溶媒: アセトン: 水(50: 50)	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○	・本法OSHA No.PV2293 の付録 A には、イオンクロマトグラフ分析結果も記載されている。			

物質名	CAS-RN	濃度基準値提案値				文献調査結果						捕集法/分析法				
		八時間濃度基準値	短時間濃度基準値	提案理由	その他コメント	標的健康影響	対象	文献番号	根拠論文	詳細調査における根拠論文選定の理由	捕集分析法	捕集法	溶解放	分析法	測定法の総合評価	備考
テトラエチルビロホスフェイト(別名TEPP)	107-49-3	0.01mg/m ³	-	18人の健常人を用いた試験で、1 mg以上 (0.0143 mg/kg体重) のテトラエチルビロホスフェイト (TEPP) を筋肉内又は静脈内投与した結果、血漿コリエステラーゼ (CHE) 及び赤血球ChEの急速な低下 (対照の60%) が見られ、経口投与では同等の影響が見られるまでにその4倍の投与量が必要であった。また、0.5 mg (0.007 mg/kg体重) のTEPPを筋肉内投与した結果、赤血球ChEが25%低下した。この筋肉内投与0.007 mg/kg体重は経口投与0.03 mg/kg体重 (4倍) に相当する。 以上より、ヒト知見から赤血球ChE活性の25%低下を臨界影響としてLOAELを0.03 mg/kg体重と判断し、八時間濃度基準値0.01 mg/m ³ を提案する。	赤血球ChE活性の25%低下	ヒト	01	GROB D, HARVEY AM. Observations of the effects of tetraethyl pyrophosphate in man, and on its use in the treatment of myasthenia gravis. Bull Johns Hopkins Hosp. 1949 Jun;84(6):532-67.		固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	Chromosorb 102 捕集管(1.00 mg/50 mg) 0.01~0.2 L/min 100~4800 min	脱着溶媒: トルエン	ガスクロマトグラフ-炎光光度検出器(GC/FID)	○	・粒子状物質の捕集について要確認 ・濃度基準値(参考)の1/10~2倍範囲のデータが示されてないため、測定する際には確認が必要である。 ・FPDを他の検出器に置き換える場合は検証が必要である。	
無水酢酸	108-24-7	0.2ppm	-	SD ラット(雌雄、各15匹/群)を用いて、0、1、5、20 ppm の無水酢酸を6時間/日、5日/週、13週間吸入ばく露した結果、20 ppm で眼及び気道(鼻道、鼻腔、気管、肺) 刺激及び体重減少が見られた。5 ppm 以上の群で、角膜変化、鼻、喉頭、気管の上皮過形成及び生じ得る所の炎症の発生が組織病理学的に見られたが、嗅上皮に病害は見られなかった。なお、13週間ばく露後に13週間の非ばく露期間を設けた群では刺激作用から意に回復した(1)。 以上より、動物実験の結果から、下気道を含む局所炎症所見を臨界影響として、NOAELを1ppmと判断し、不確実係数等を考慮した0.2 ppmを八時間濃度基準値として提案する。なお、短時間濃度基準値は根拠となる文献が見られないことから提案しない。	下気道を含む局所炎症所見	ラット	01	13-week inhalation toxicity study in rats with cover letter dated 09/19/96. NITS/OTS 0556144-1, EPA/OTS Doc ID 89960000214.		ろ過(反応) 捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	ペラトリルアミン及びフル酸ジ-ヘキサチル含浸ガラス織維フィルター 0.5 L/min 又は 0.05 L/min 15 min(0.5 L/min の時), 150 min(0.05 L/min の時)	溶媒抽出: 2-プロパンノール/トルエン(50/50)	ガスクロマトグラフ-窒素検出器(GC-NPD)	○	・8時間値を測定する際は捕集流速を0.05 mL/min、短時間値は0.5 L/minとする。 (※)濃度基準値の検討結果を踏まえ、上記記載は修正する可能性があるもの。 ・捕集剤は1ヶ月程度が消費期限である。	
メチラール	109-87-5	1,000ppm	-	White Swissマウス (雌雄不明) 50匹に11,300 ppm (35.1 mg/L) のメチラールを7時間/日、22日間吸入ばく露した結果、対照群に比べて体重、赤血球数、白血球数、ヘモグロビン濃度に有意な差異は見られなかっが、軽度な刺激と麻酔作用が見られ、3-4時間のばく露後に協調運動障害が見られた。また、White Swissマウス (雌雄不明) 20匹に13,500 ppm (42 mg/L) のメチラールを7時間/日、17日間に13回吸入ばく露した結果、刺激はより顕著になり、麻酔作用は深く、その回復が遅くなった(1)。 雌Wistarラット(10匹/群)に0.400, 2.000, 10,000ppm (実測値: 0.377, 1,908, 9,652 ppm) のメチラールを7時間/日、5日/週、13週間鼻部ばく露した結果、9,652 ppm群では平衡失調や自発活動の低下、肝重量の増加が見られたが、神経学的障害、病理組織学的变化は見られなかっ(2)。 以上の結果から、動物実験の結果より平衡失調や自発活動の低下、肝重量の増加を臨界影響としたLOEL (最小影響量)を9,652 ppmと判断し、不確実性係数等を考慮した1,000 ppmを八時間濃度基準値として提案する。	平衡失調や自発活動の低下、肝重量の増加	ラット	01	Weaver FL Jr, Hough AR, Highman B, Fairhall LT. The toxicity of methylal. Br J Ind Med. 1951 Oct;8(4):279-83.		固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管 (100 mg/50 mg) 0.01~0.2 L/min 5~300 min	脱着溶媒: ヘキサン	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○		
				02			Hofmann T (Pharma Development Corporate Toxicology Hoechst Aktiengesellschaft, Frankfurt am Main, DE). 1994. Subchronic (13-week) inhalation toxicity study of methylal in rats with cover letter dated 12/01/94. Dallas (TX): Hoechst Celanese Corporation. 495 p. Report No. 94.0647. Available from: NTIS, Springfield, VA, USA.									
5-メチル-2-ヘキサン	110-12-3	10ppm	-	Sprague-Dawley雌雄ラット各群15匹に、5-メチル-2-ヘキサン0、200、1,000、2,000ppmを6時間/日、5日間/週で96日間 (合計69回) 吸入ばく露させたところ、1,000ppm以上の群で腎臓重量、腎臓の相対重量、腎臓の細胞質好塞性基化、肝臓重量、肝臓の相対重量の増加、および肝臓の軽度の肥大と最小限の壞死がみられ、雌ラットで腎臓の相対重量、肝臓重量、および肝臓の相対重量の中等度の肥大及び軽度の壞死がみられ、雌ラットで腎臓の細胞質好塞性基化および肝臓細胞の中等度の肥大がみられ(1)。 また、2,000ppmの雄ラットで肝臓細胞の中等度の肥大及び軽度の壞死がみられ、雌ラットで腎臓の細胞質好塞性基化および肝臓細胞の中等度の肥大がみられ(1)。 以上より、動物実験の結果から腎臓及び肝臓の相対重量増加を臨界影響としたNOAELを20ppmと判断し、不確実性係数等を考慮した10ppmを八時間濃度基準値として提案する。また、短時間濃度基準値に関しては、現時点では情報が限られているため、設定は見送ることを提案する。	腎臓及び肝臓の相対重量増加	ラット	01	Katz GV, Renner ER Jr, Terhaar CJ. Subchronic inhalation toxicity of methyl isooamyl ketone in rats. Fundam Appl Toxicol. 1986 Apr;6(3):498-505.		固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管 (100 mg/50 mg) 0.2 L/min 50 min	溶媒脱着: 二硫化炭素/ジメチルホルムアミド(99/1)	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○		
シクロヘキサン	110-82-7	100ppm	-	ウサギ4匹にシクロヘキサン786 ppmを6時間/日、50日間連続吸入ばく露した結果、肝と腎に軽度の病理組織学的な変化が見られたが、ウサギ4匹に434 ppmを8時間/日、5日/週、26週間吸入ばく露した結果では、病的変化は見られなかっ(1)。 Wistar ラット(8匹/群)に400、2,300、8,000 ppmのシクロヘキサンを8時間/日、連続3日間ばく露した時、8,000 ppmでは神経行動学的検査で軽微な影響が見られた。12名の健常男性ボランティアに25及び250 ppmを4時間ばく露し、神経行動学的検査をした結果、両濃度において、影響は見られなかっ(2)。 雌雄CDラット各群65匹と雌雄マウス各群67匹に0、500、2,000、7,000 ppmのシクロヘキサンを6日/日、90日間ばく露した結果、2,000、7,000 ppm群では一過性の行動異常(音響刺激に対する警戒反応の異常)が見られた(3)。 以上の結果より、動物実験の結果より一過性の行動異常を臨界影響としたNOAELは500 ppmと判断し、不確実性係数等を考慮した100ppmを八時間濃度基準値として提案する。	一過性の行動異常	ラット、マウス	01	Treon JF, Crutchfield WE, Jr; Kitzmiller KV: The physiological response of animals to cyclohexane methylcyclohexane, and certain derivatives of these compounds. II. Inhalation. J. Ind. Hyg. Toxicol. 25:323-47 (1943)		固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管 (100 mg/ 50 mg) 50 mL/min 190 min	溶媒脱着: 二硫化炭素	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC-FID)	○		
				02			Lammers JH, Emmen HH, Muijsier H, Hoogendoorn EM, McKee RH, Owen DE, Kulig BM. Neurobehavioral effects of cyclohexane in rat and human. Int J Toxicol. 2009 Nov-Dec;28(6):488-97.									
				03			Malley LA, Bamberger JR, Stadler JC, Elliott GS, Hansen JF, Chiu T, Grabowski JS, Pavkov KL. Subchronic toxicity of cyclohexane in rats and mice by inhalation exposure. Drug Chem Toxicol. 2000 Nov;23(4):513-37.									
エチレングリコールモノブチルエーテルアセテート、(EGBEA)	112-07-2	20ppm	-	EGBEA [CAS RN 112-07-2]と2-ブトキシエタノール[CAS RN 111-76-2]のヒト生体内における影響はほとんど同じであることが報告されている(1)。 雌雄ウスター-ラット(10匹/群)、雌雄ニュージーランド兔(4匹/群)に4時間/日、5日/週、400 ppmを1ヶ月吸入ばく露した結果、血色素と血尿が見られ、全てのウサギで尿細管壞死、萎縮性尿管拡張と尿管管顆粒沈殿がみられ、2匹が死亡した。雌ラットでは尿管管内壁の病変が認められたが、雄ラットでは腎臓の変化は認められなかっ。 100 ppm、1ヶ月ばく露では、両動物種において血色素と血尿は見られず、極軽度な尿細管腎炎が見られた。両ばく露において、肺への悪影響や刺激は見られなかっ(2)。 ボランティア4人に100または200 ppmのブトキシエタノールを8時間ばく露した結果、鼻と目に刺激を感じられた(3)。 また、男性ボランティア1名に50Wの運動負荷を加えて20 ppmを2時間ばく露した場合、肺換気、呼吸回数、自覚症状に異常はなかっ(4)。 以上より、ヒト知見で所見が認められない20 ppmをNOAELと判断し、八時間濃度基準値20ppmを提案する。	肺換気、呼吸回数、自覚症状	ヒト	01	MAK; Addendum to 2-Butoxyethyl acetate (Ethylene glycol monobutyl ether acetate). The MAK Collection for Occupational Health and Safety 1, 2058 (2016)		固体捕集 - ガスクロマトグラフ分析方法	ヤシ殻活性炭管 (100 mg/50 mg) 0.1 L/min 480 min	脱着溶媒: ジクロロメタン/メタノール 95/5(v/v)(内部標準物質: 2-エチル-1-ヘキサノール)	ガスクロマトグラフ-水素炎イオン化検出器(GC/FID)	○	・室温保存した場合、2-ブトキシエタノールは2-ブトキシエタノールと酢酸に加水分解される。	
				02			T Truhaut R, Dutertre-Catella H, Phu-Lich N, Huyen VN. Comparative toxicological study of ethylglycol acetate and butylglycol acetate. Toxicol Appl Pharmacol. 1979 Oct;51(1): 117-27.									
				03			Carpenter CP, Keck GA, Nair JH 3rd, Pozzani UC, Smyth HF Jr, Weil CS. The toxicity of butyl cellosolve solvent. AMA Arch Ind Health. 1956 Aug;14(2):114-31.									
				04			Johanson G, Kronborg H, Näslund PH, Byfält Nordqvist M. Toxicokinetics of inhaled 2-butoxyethanol (ethylene glycol monobutyl ether) in man. Scand J Work Environ Health. 1986 Dec;12(6):594-602.									
りん酸トリフェニル	115-86-6	3mg/m ³	-	りん酸トリフェニル製造工場の作業員(男性、32名、勤続2~10年(平均7.4年))について、りん酸トリフェニルのみばく露に関して、気中濃度(加重平均)=3.5 mg/m ³ を10年間ばく露した場合、皮膚炎、眼又は気道の刺激、原因不明の病気、神経疾患などの有害な臨床影響は見られなかっ。ただし、6名の作業員では、赤血球コリエステラーゼ活性がわずかではあるが、統計学的に有意な減少が見られた(1)。 以上より、ヒトの知見から神経疾患などの有害な臨床影響が認められなかっ3.5 mg/m ³ をNOAELと判断し八時間濃度基準値3 mg/m ³ を提案する。	神経疾患などの有害な臨床影響	ヒト	01	Sutton WL, Terhaar CJ, Miller FA, Scherberger RF, Riley EC, Roudabush RL, Fassett DW. Studies on the industrial hygiene and toxicology of triphenyl phosphate. Arch Environ Health. 1960 Jul;1:33-46.								

